

特別賞



設計者

田原幸夫

■ 東京建築士会、(株)ジェイアール東日本建築設計事務所 丸の内プロジェクト室

駅・ホテル・美術館

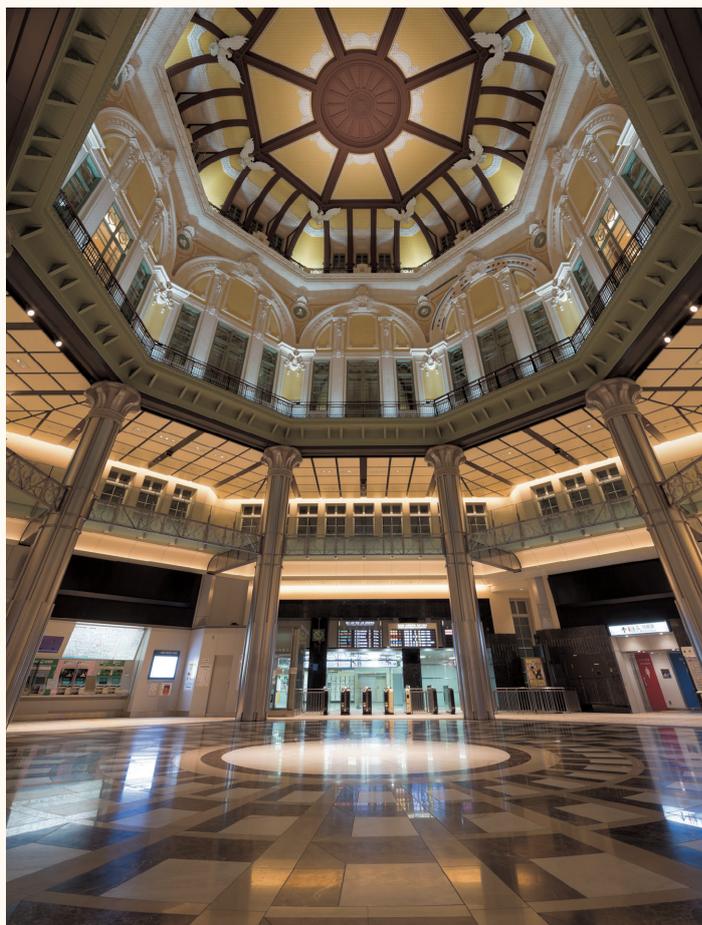
東京都千代田区丸の内

東京駅丸の内駅舎保存・復原工事

構造・階数	敷地面積	建築面積	延床面積	竣工
鉄骨煉瓦造、RC造、一部S造、SRC造、免震構造 地上4階建て(一部5階)、地下2階	20,482.04㎡	9,683.04㎡	4,2971.53㎡	平成24年10月1日



A



B

選評

東京駅丸の内駅舎保存・復原は国鉄民営化によって駅舎がJR東日本の所有になったことから始まる。1999年都知事による創建時の復元とJR東日本社長の復元方針発表を契機に、伊藤滋座長をはじめとする行政、学識経験者による検討委員会が発足し検討した結果、保存・復原は可能であるとの意見がとりまとめられ、プロジェクトが正式にスタートした。特例容積率適用区域制度創設、国の重要文化財指定がプロジェクト進捗の支えになったことは言うまでもない。

紆余曲折はあれど、このプロジェクトを円滑に進められたのは、組織を設計・監理体制を軸に立ち上げるとともに、保存・復原設計の基本方針を明確にしたことである。また、専門委員会

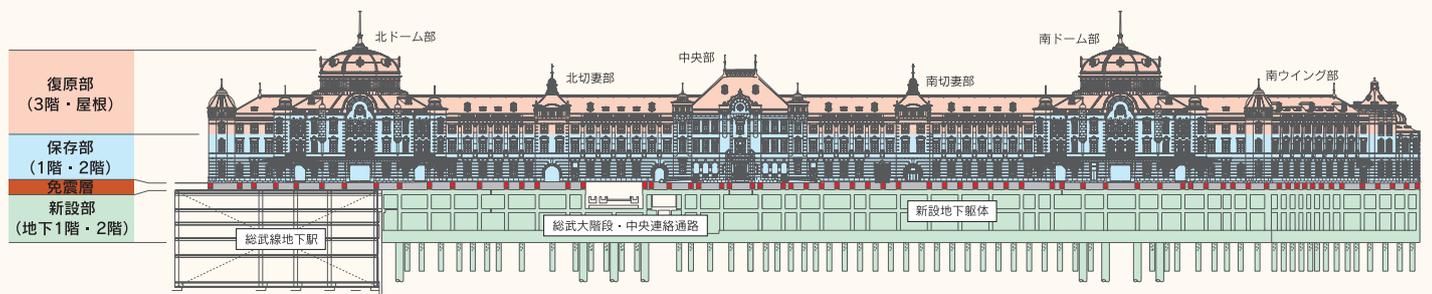
との協議を踏まえて、幅20m、長さ335mの駅舎を免震構造とする決定が早期になされたことも一つではないだろうか。このプロジェクトの成果は、建築物の保存・復原・活用デザインを進めるにあたって、これからの規範となると思われる。

1914年辰野金吾の設計によって建てられた東京駅丸の内駅舎が保存・復原されたことは、東日本旅客鉄道(株)、(株)ジェイアール東日本建築設計事務所、専門委員会(アドバイザー)、文化財保護法・建築基準法の指導にあたられた方々皆さんの情熱と絆によるものである。日本建築士会連合会作品展審査委員会は特別賞を授与し、敬意を表することとした。

(村松映一)



C

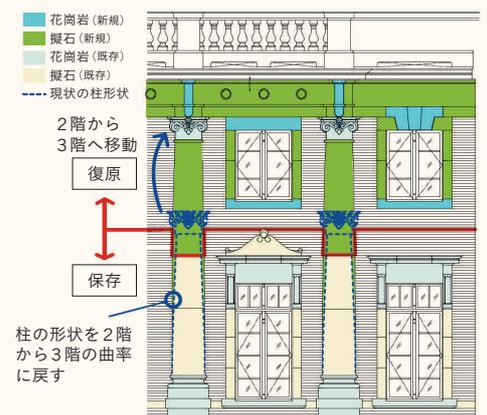


- A 復原された屋根。天然スレートと銅板による多様な意匠
- B ドーム内観
- C 正面外観
- D 広場側立面図
- E 北ドーム外観。改修前(左)および改修後(右)
- F 中央部外観
- G 外壁の復原手法
写真撮影…SS東京

E



F



G